

日本学習社会学会

Japanese Association for the Study of Learning Society

会報 No. 2 2005年11月5日

<第2回大会報告号>

目次

第2回大会を終えて.....	2
シンポジウム.....	3
課題研究.....	4
第2回大会総会の報告.....	7
第3回大会のご案内.....	8

日本学習社会学会事務局

〒196-8540 東京都昭島市東町3-6-33

(首都大学東京昭島キャンパス 岩崎研究室気付)

TEL : 042-543-3001 FAX : 042-543-3002

日本学習社会学会第2回大会を終えて

第2回大会実行委員長：遠藤忠(宇都宮大学)

9月10(土)、11日(日)の2日間にわたって、日本学習社会学会第2回大会が、私どもの宇都宮大学学生会館を会場として開催されました。会期中は、夏の暑さがまだ十分に残り、参加された方々には会場との行き帰りにはさぞかし過ごしづらい思いをされたと思います。この紙面をお借りして、改めてお許しをいただきたいと思います。

幸いといえましょうか、本学会は、まだ、誕生間もなく、規模もそれほど大きくないせいでしょうか、本部控え室と280名収容の小ホールを含め6室しかない学生会館2階のフロアだけですべての企画を実施することができました。我々も助かりましたが、参加された方々にも移動上のご不便をあまり掛けないですんだのではないかと思います、大会実施担当としての慰めとしております。

規模がそれほど大きくないといいましたが、第1回の大会の時の会員数は120名程度と聞いておりますが、本大会第1日には当日の入会申し込みを含め、会員数が190名を超え、200名にあと一步のところになりました。また、会員で今次の大会参加した者の数は84名にのぼり、手伝いの方々も交えた懇親会も60名収容の会場に入りきらないほどの盛況でした。

「学習社会」という言葉は、教育や学びの在り方に関心を持つ方には、大変なじみやすい言葉であると思いますが、既存の教育関係の諸学会との違い、位置関係について幾分かかりづらいものがありました。本大会でも、この点を考慮し、やや異例のことではありましたが、第1日目のシンポジウムの冒頭に川野辺敏会長にご挨拶をお願いし、学会設立の理念について簡潔で要点をついたお話をいただきました。突然のお願いで川野辺会長にはご迷惑をおかけしましたが、お話は短いながらも聞くものの胸に落ち、シンポジウムに対する格好の導入になったように思っております。

大会を終えて振り返ってみますと、実施責任者としていたらないことばかり思い出されて、会員の皆様には申し訳ない気持ちですが、一方、今次の大会が無事おわり、本学会の第2回大会として一定の成果も上げられたのではないかと思います。そうだとすると、本部事務局の担当者の方々のひとかたならぬご尽力のおかげであることはもちろんですが、大会実行委員会で裏方を務めた広瀬隆人会員や森照代会員をはじめとする栃木の仲間たちのお陰だと思えます。この場を借りて、関係各位の方々のご尽力、ご助力に深く感謝申し上げます。

日本学習社会学会・第2回大会シンポジウム

テーマ：学習社会の^{いま}現在を問う

コーディネーター：藤井佐知子（宇都宮大学）

シンポジスト：萩原元昭（江戸川大学）

佐藤晴雄（帝京大学）

今年のシンポジウムは、「学習社会の現在を問う—学校と地域の関係から—」というテーマのもと、佐藤晴雄（帝京大学）氏と萩原元昭（埼玉学園大学）氏のお二人からの報告・提案をもとに、活発な議論が展開された。

まず佐藤氏は、「大人の学校参画の観点から—学校・地域連携による新たな大人の学びの創造—」とのタイトルで、学校支援ボランティアの活動を中心に報告された。氏は、学校支援ボランティア活動は「学び」という形式を見せないが大人の新たな学びの形態といえるものであり、社会教育の伝統的な学習の特質である「顕在的」「目的的」「意図的」「受益的」「既製の」といった特徴に対して、「潜在的」「手段的」「無意図的」「寄与的」「開発・創造的」という特質が見出せると指摘された。そしてご本人が関わっている中野区立沼袋小学校の【教育サポーター—授業サポーター—】と三鷹市立第四小学校の【教育ボランティア—学習アドバイザー—】の事例をスライドを交えて報告された。氏はまた、学校支援ボランティアの4つの類型化を示し、この二つの事例はいずれも、教育活動に直接携わる「タイプ④学習アシスタント型」とであると説明された。今後公民館等の社会教育施設はハードウェアの点で限界に突き当たることから、これを補い、高齢社会に対応するためにも学校支援ボランティアに注目することが重要になり、社会教育行政の重要な課題となるのではないかと、との提起がなされた。

萩原氏は、「子どもの社会参画の観点から」と題し、まず学習社会を考えるにあたって、子どもの視点から「人間的になること」を目的とした学習の場として、学校と地域を捉えなおす必要があると指摘された。氏によれば「人間的になること」とは、1) 能動性、2) 有能性、3) 人と関わる特性の3つを高めることである。そしてこれからの学習社会は、1) については、学校は固定的な学年制から一人ひとりが尊重される個別選択性の方向へ、地域は子どもが参加するだけの活動から参画する活動への転換が必要であること、2) については、学校はこれまでの流動性知力中心から結晶性知力中心へ、地域は結晶性知力形成の宝庫としての力をより発揮する方向へ向かうこと、3) については、学校は性・年齢が最大限に交差する教科教育別学習の方向へ、地域は異文化・老若男女が取り組むさまざまな活動を活発にしていくことが課題であると指摘された。そして、大人も子どもも地域の課題について自分たちが参画して実践し、地球市民としての資質を高めていくことが重要だと述べられた。

以上の報告に対してフロアーからは、高齢者の自己実現はいいが、教師の専門性の解体ではないか、という意見や、最近の教育政策の流れは人とかがかわって生き生きと学び取っていく場がどんどん減らされる方向なのではないかという意見が出され、現実とのかかわりで学習社会を論じる必要性が提起され議論が展開された。最後に佐藤氏は、創発と効率の二つの視点で学校支援ボランティアを評価していくべきこと、萩原氏は、地域は本物の体験を豊富に用意し、学校は子どもの活動から学び、一緒に考え、そして特に中学生には地球規模の問題に参画できるチャンスを用意すべきことを提言され、まとめとした。

学習社会の現在（いま）をどうみるか、というのは思いのほか難しい課題であると改めて実感したシンポジウムであった。今回のお二人の報告は大人と子どもという二つの切り口から、学習社会の方向性の模索にとって重要な視点を提起してくれたように思う。今後学会をあげて学習社会の確かな未来を築いていく一助になることを願っている。

文責 藤井佐知子(宇都宮大学)

日本学習社会学会・第2回大会課題研究

日本学習社会学会第2回大会の課題研究は、第1回大会に引き続き、以下の5つのテーマの下に開催された。どの課題研究会の会場も熱気に包まれ、真剣な議論が展開され、学問的にも実践的にも実り多いものであった。

なお、事務の都合から、その報告掲載が一部に留まる結果になったことをここにお詫び致します。

課題研究：テーマ1「世界の地域問題と教育・文化・学習」

コーディネーター：前田 耕司（早稲田大学）

提案

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. イギリスにおけるイスラーム文化と宗教系学校 | 佐藤 千津（大東文科大学） |
| 2. ヨーロッパにおけるムスリムの生活世界と教育 | 見原 礼子（一橋大学大学院） |
| 3. 中国都市社会における回族の養育期待 | 金塚 基（東京女子体育短大非） |
| 4. 多文化教育と日系アメリカ人のナショナルアイデンティティ | 岡本 智周（筑波大学） |

課題研究：テーマ2「地域づくりと市民の学習」

コーディネーター：浅野 秀重（金沢大学）

提案

- | | |
|--|---------------|
| 1. 地域の活性化を市民活動と地域教育力再生の観点から考える | 岡田 和徳（星槎大学） |
| 2. 複合的施設を活用した学校と地域の連携
－学校安全という側面から－ | 堀井 啓幸（山梨県立大学） |

課題研究：テーマ3「学校と地域社会」

コーディネーター：伊藤昭彦（神奈川県立横浜清陵総合高等学校）

提案

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 学校支援ボランティア研修会 | 猪瀬 清隆（栃木県教育委員会） |
| 2. 新しい学びの場の創出に向けた
学校インターンシップ | 若槻 健（関西大学） |
| 3. 市民参加による新しい学校づくり | 堀越 幾男（足立区教育委員会） |

課題研究：テーマ4「キャリア開発と学習」

コーディネーター：手打 明敏（筑波大学）

共通テーマ：社会人のキャリア開発にとっての大学院修士課程の現状と課題

提案

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 1. 社会人のキャリア開発にとっての大学院修士課程の現状と課題 | 平塚 知真子（筑波大学大学院修士課程教育研究科） |
| 2. 大学院修士課程は社会人のキャリア開発にとっていかなる意味をもつのか | 中川 直樹（筑波大学大学院修士課程ビジネス科学研究） |
| 3. 社会人のキャリア開発にとっての大学院修士課程の現状と課題 | 大出 忠央（栃木県総合教育センター） |

コメンテーター：有馬 廣実（拓殖大学）

課題研究：テーマ5「学習社会システムの再編化と市民的公共性（2）」

コーディネーター：篠原 清昭（岐阜大学）

提案

- | | |
|--|-------------|
| 1. 教育委員会制度改革・論議に見る生涯学習事業の
首長部局化 | 武者 一弘（信州大学） |
| 2. 生涯学習事業の首長部局化にみる生涯学習事業の
再編化の方法 | 益川 浩一（岐阜大学） |
| 3. 生涯学習事業の首長部局化の評価と課題
－出雲市における事例から－ | 岸 和之（出雲市） |

課題研究1：「世界の地域問題と教育・文化・学習」報告

見原 礼子（一橋大学大学院）

昨年の研究成果を踏まえて設定した今回の課題研究テーマ1では、9.11以後の目まぐるしい世界情勢の変動を射程に入れつつ、宗教的・民族的マイノリティの教育をめぐる諸課題について幅広い考察をおこなった。諸課題とはすなわち、一方において、世界の様々な地域における公教育が宗教的・民族的なマイノリティに対していかなる制度上・実際上の対応をしているのかという問いであり、他方では、公教育の枠組みの中においてマイノリティ自身はどのようなアイデンティティを形成し、自らの宗教や民族への公教育の対応についてどのような反応を示しているのかという問いである。具体的には、ヨーロッパおよび中国におけるムスリムマイノリティ、そしてアメリカにおける日系アメリカ人の事例が扱われた。

佐藤会員の報告からは、当初ムスリム住民によって設立されたイスラーム学校が、イギリスの公教育として承認される過程が示された。その根拠には、公教育と宗教のイギリス特有の親和関係と、公教育システムの多様化政策があった。イギリスの特徴であったこのような多文化主義のありかたが、2005年7月に起こったロンドン多発テロ事件によって、今後どのように変化していくのかは注目される場所である。

一方、見原の報告では、イギリスと異なり、公教育において宗教を厳格に排除しているフランスのムスリムが公教育で直面している課題を扱った。そこから、公教育における非宗教性という制度的根拠によって、ムスリム女生徒の自己規定に大きくかわるスカーフが排除されることで、教育を通じた彼女たちの自己実現の機会が奪われるという事態の重さと教育をめぐる矛盾を指摘した。

続く金塚会員の報告からは、中国都市部に暮らす回族の人の生活世界と養育における期待・戦略が量的データによって考察され、近年の社会変動にともない上昇移動しようとする回族集団の同化(漢化)ならびに集住志向の低下傾向が示された。

そして岡本会員の問題提起からは、20世紀後半のアメリカ歴史教科書において展開された「アメリカ」的枠組みの多様化と国民統合の強化という2つの側面が、日系4世のアイデンティティにおける、「日系性」の重要性の低下とアメリカ共通の土台としての公民権に対する重視というバランス構造をもたらしたことが描き出された。

4つの報告から、マイノリティの宗教的・民族的要素の扱われ方は、「国民」養成機関としての公教育制度が想定する「国民」の概念や「国民統合」のありかたに大きく拠ることが共通に浮かび上がった。また、公教育やそれが創出する「国民」概念や政教分離概念に対して取るマイノリティの姿勢は、各々の社会やコミュニティを取り巻く環境によって多様である。この事実こそが、ひとの学習や教育に対するニーズや期待の多様性を示しているといえるであろう。マイノリティの教育をめぐる状況の多角的考察は、「国民」をつくる教育枠組みでは捉えきれない学びの創出とその可能性を提起する。そのための実証性をともなった教育研究が、今後も引き続きもとめられる。

課題研究4「キャリア開発と学習」報告

手打明敏（筑波大学）

本年度の課題研究4では、社会人のキャリア開発に果たす、わが国の高等教育機関の役割を問うという視点から、高等教育機関のなかでも、社会人のキャリアアップの場としてその存在が広く認識されるようになった、大学院修士課程に焦点化して、「社会人のキャリア開発にとっての大学院修士課程の現状と課題」をテーマとして設定した。

報告者には、大学院修士課程に在籍している（修了した）、下記の社会人3氏にお願いした。

平塚 知真子（筑波大学大学院修士課程教育研究科）

中川 直樹（筑波大学大学院修士課程経営システム科学）

大出 忠央（栃木県総合教育センター生涯学習部 社会教育主事宇都宮大学大学院教育学研究科修了）

コメンテーターには、教員の生涯教育について長年研究されて、かつ、青山学院大学、桜美林大学の社会人大学院で社会人の教育にも携わってこられた有馬廣実氏（拓殖大学）をお願いした。

課題研究の報告に先立ってコーディネーターから平塚知真子氏欠席の理由が説明された。コーディネーターが平塚氏に課題研究への報告を依頼した際に開催日を9月11日（日）と誤って連絡して了解を得ていたため、本日（9月10日）はすでに先約があり、欠席せざるを得なくなったこと、そしてコーディネーターから、このような結果を招いた不手際について陳謝の意が表明された。あわせて平塚氏から提出されたレジメをコーディネーターが代読することが了解された。

3氏の報告は、コーディネーターからの要請もあり、①大学院修士課程進学動機、②大学院修士課程が社会人のキャリア開発にとってもつ意味、③社会人大学院の課題、について報告がおこなわれた。

大出氏からは、大学院での指導内容についての情報が少なく、何が学べるのかが不明確であることと、夜間や休日には大学施設の利用等に制限があるにもかかわらず、授業料等が昼間の大学院生と同じであることとの不公平さが指摘された。このことは社会人を受け入れている大学側の対応が社会人院生の要求に追いついていないことを示している。

中川氏からは、氏の研究テーマにも言及されながら報告が行われた。中川氏は、社会人大学院生は研究成果をどのようにしたら実務、ビジネスに生かすことができるかを志向する意識が強いが、教員側はいかに研究成果をだすかという志向性が強く、社会人院生と教員側に教育内容の面でミスマッチがおきていると指摘された。

平塚氏は女性特有の課題として、出産、育児、子育て、介護等でキャリアを中断せざるを得ない場合が多い状況を逆手にとって、修士課程にキャリアアドバイザー養成課程の設置を提唱している。女性の経験を生かした学び（学位取得）が職業に結びつけられると構想を述べている。

以上3氏の報告を受けて、コーディネーターの有馬氏から、つぎのようなコメントがあった。

- 1) 社会人大学院修士課程の情報不足は①シラバスレベルの問題、②修了後のメリット、という2つの面でいえる。
- 2) 大学院担当教員の実務経験不足は、将来的には解消されるという見通しを述べられた。
- 3) キャリアアップという観点からの論議はあったが、他方、日本の産業構造を考えれば、社会人大学院の課題として中小企業をバックアップするという論議がもっとされるべきではないか。

以上の3報告とコメントを受けて討論がおこなわれたが、わずかな時間しか残されておらず十分な議論ができなかったのは残念であった。

日本学習社会学会 第2回大会総会の報告

日本学習社会学会第2回大会は、2005年9月10(土)～11日(日)の2日間、宇都宮大学峰キャンパスで盛況のうちに実施された。質疑応答の後「2005年度事業計画」及び「2005年度予算案」などが可決された。

[2005年度予算] (2005年4月1日～2006年3月31日)

<収入>

勘定科目	予算	2004年度決算	差異	備考
当年度会費	1,510,000	1,070,000	440,000	会員30人(予定)
一般会員	1,360,000			1,000円×130人
学生会員	150,000			5,000円×30人
過年度会費	69,000	0	69,000	
一般会員	64,000			1,000円×3
学生会員	5,000			5,000円×1
機関誌等売上	60,000	0	60,000	1,000円×3
その他(贈・祝賀)	1,000	0	1,000	
前年度繰越金	533,625	0	533,625	
収入総計	2,173,625	1,070,000	1,103,625	

<支出>

単位:円

勘定科目	予算	2004年度決算	差異	備考
大会費 運営費・会場費 大会資料費等	300,000	247,707	52,293	7カバイト代等 印刷・製本代等
機関誌等	850,000	0	850,000	
印刷費	650,000			年報、パンフレット、その他
送料	90,000			300部×(300)円
編集費	110,000			年報会誌費等
事務局運営費	250,000	288,668	-38,667	
印紙・封筒費等	50,000			会員30人/学会ニュース
送料	50,000			/7カバイト代等/事務局会議費等
事務費	150,000			
予備費	773,625	0	773,625	
支出総計	2,173,625	536,375	1,637,250	

常任理事の選任について

東京及び関東近辺に在住している理事の中から、以下の会員が常任理事に選任された。

- ★新井郁男 (放送大学)
- ★川野辺 敏 (星槎大学)
- ★有園 格 (星槎大学)
- ★佐藤晴雄 (帝京大学)
- ★伊藤昭彦 (神奈川県立横浜清陵高等学校)
- ★岩崎正吾 (首都大学東京)
- ★関 啓子 (一橋大学)
- ★浦野東洋一 (帝京大学)
- ★手打明敏 (筑波大学)
- ★小島弘道 (筑波大学)
- ★堀井啓幸 (山梨県立大学)
- ★貝ノ瀬 滋 (三鷹市立第四小学校)
- ★堀越幾男 (足立区教育委員会)
- ★門脇厚司 (筑波女子大学)
- ★前田耕司 (早稲田大学)
- ★亀井浩明 (日本連合教育会長)
- ★柳田久美子 (さいたま市見沼区役所)

日本学習社会学会 第3回大会開催のご案内

日本学習社会学会第3回大会は、筑波大学にて開催する運びとなりました。詳細は追って連絡しますが、現在、以下のようなことを企画しています。

1. 開催地・会場

筑波大学

2. 日程

日程については、現在調整中です。2006年9月の第3週の土・日を候補にあげていますが、決まり次第連絡致します。

3. 内容

- (1) シンポジウム：学習社会をより広く捉えたものとし、5月頃に詳細を決定します。
- (2) 課題研究：3年目なので、これを区切りとして昨年と同テーマとします。
 - テーマ1：世界の地域問題と教育・文化・学習
 - テーマ2：地域づくりと市民の学習
 - テーマ3：学校と地域社会
 - テーマ4：キャリア開発と学習
 - テーマ5：学習支援システムの再編化と市民的公共性の創造
- (3) 自由研究発表
- (4) 理事会、総会
- (5) 懇親会
- (6) その他

4. 募集

課題研究の〈テーマ1～テーマ4〉の発表者を会員から募ります。

- ・ふるってご応募下さい。
- ・幸いにして、応募者多数の場合は、自由研究に回ってもらうことがあります。
- ・応募方法の詳細については、追って連絡致します。